

平成26年1月6日 新年賀詞交換会 市長あいさつ

明けましておめでとうございます。本日出席の2,306名の皆様とともに、つつがなく新年を迎えることができ、喜ばしい限りです。

長岡市は、今年、市制施行108年を迎えます。先人のたゆまぬご努力が、1年1年引き継がれてきた結果今日の繁栄を迎えているという歴史に思いを合せないわけにはまいりません。新しい年は過去との絆の中で誕生します。そしてその新年もやがては過去となり、次の年へとつながっていきます。

昨年は、約3,300人の市民がお亡くなりになりました。心からお悔やみ申し上げますとともに、亡くなられた方々のご意思を引き継いでいくという責任を痛感いたします。一方、約2,200人の赤ちゃんが産声をあげました。その新しい市民の未来に対する責任も同時に痛感いたします。

昨年は、長岡市が大きく飛躍した年でありました。

まず、アオーレ長岡は、これまでに約1,100団体2万1,100人の視察を受け入れるなどの実績を踏まえ、国土交通大臣から表彰されました。今後の公共施設による中心市街地活性化のモデルとしての評価が定まりました。

また、ガレキの焼却をご縁に大槌町をはじめとする被災地に対し数々の支援を行いました。

さらに、全国最大規模の生ごみバイオガス発電センターが7月に本格稼働しました。

そして、フェニックス大橋と左岸バイパスが開通し、東西の連携が強化されました。

これらの実績は、本日お集りの皆様をはじめ、市民のご理解とご協力の賜物であります。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

しかし、これらは既に過去の実績となりました。過去に満足して立ち止まることなく、むしろ新たな旅立ちの踏み台として、今年も様々な政策を力強く推進して参りましょう。

第1に、地方の元気なくして日本の再生はないという信念のもと、消費税率の引き上げという大きな節目を乗り切らなければなりません。いただいた税金はすべて皆様にお返しすることが筋であります。4月以降の景気動向を注視しながら、適切な経済対策を実施するとともに、経済と財政の安定という基礎に立って社会保障政策を充実させます。

第2に、復興の10年を見据え、その先の未来へ力強く前進いたしましょう。

全国植樹祭を6月に開催します。天皇皇后両陛下をお迎えして、復興した長岡の力強い姿をご覧ください。

大花火大会は、10年という特別な思いを込めて復興祈願花火「フェニックス」を打ち上げます。

昨年「やまこし復興交流館おらたる」がオープンし、「中越メモリアル回廊」が完成しました。長岡市の復興の姿が東日本大震災の被災地の希望の光となるよう、これからも復興支援に全力を尽くそうではありませんか。

第3に、市町村合併からまもなく10年目をむかえます。

11地域のゆるキャラが勢ぞろいしたことに象徴されるように、それぞれの地域の個性が輝きながら長岡が一つになる合併をこれまで進めてきました。今後は、コミュニティ活動を充実させるなど、新たな10年の進むべき道確立しなければなりません。

以上3点の重要課題の他にも、様々な政策を逞しく推進して参ります。

第1に、健康・医療・福祉を連携させた多世代健康モデル事業を、慶応大学や㈱タニタなど産学官が一緒に取り組み、健康サービスの新たな展開を図ります。

第2に、6年後の東京オリンピックに向け、ジュニア選手の育成強化、国際大会や合宿地の誘致などに積極的に取り組みます。

第3に、10年の節目を迎える熱中・感動・夢づくり教育をさらに充実させてまいります。

第4に、公共交通の結節点となる長岡駅前の中心市街地では、福祉の拠点となる再開発事業により社会福祉センターや老人ホームなどを整備します。

第5に、左岸バイパスの南北への延伸、北スマートICや東西道路の国道17号への接続など広域幹線道路網を整備し、防災力の強化を図ります。

第6に信濃川右岸の堤防強靱化工事により新たに生まれる10haの河川敷を花火大会の観覧席として活用します。

第7に、雪国仕様のメガソーラー発電所を西部丘陵東地区に整備します。

長岡市の発展の原動力は、市民の「誇りと自信」であります。特に、子どもたちが誇りと自信を持って自慢できる長岡に成長させることが、米百俵の長岡に住む我々に課せられた責務ではないでしょうか。

皆さん、市民、経済界、学界、行政が強力なスクラムを組み、「逞しく前へ」着実に歩みを進めていこうではありませんか。